

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
①	横田酒造	●		江戸酒蔵 近江商人の造り酒屋。清酒「日本橋」「浮城」の醸造元(彩の国指定工場)	横田酒造株式会社
				地元では日野屋とも呼ばれる、文化2年(1805)創業の近江商人の造り酒屋です。創業時には主要な材木を近江日野(現在の滋賀県)より調達して建てられたと伝わる酒蔵7棟が今も健在です。横田酒造は、文化2年(1805年)創業。酒名「日本橋」の由来は、創業者が、日本橋の酒問屋で修行の後、独立する際、“初心忘るべからず”との家訓をこめてつけられたものです。	
	行田市観光ブログ 横田酒造株式会社			<a href="http://www.gyoda-">http://www.gyoda-</a> <a href="http://yokota-shuzou.co.jp/">http://yokota-shuzou.co.jp/</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
①	日本料理はす蔵	●		江戸酒蔵 築200年「横田酒造」の創業1805時に建設	日本料理『はす蔵』
				埼玉県行田市にある造り酒屋『横田酒造』の古い蔵を利用した日本料理のお店です。以前ここは蔵一山という居酒屋でしたが、数年前に閉店。閉店少し前にお昼の定食を食べてみたことがありました。するとご飯の歯触りが何かおかしい。よく見てみると小さく割れているご飯粒が多数。何かの間違いか、と思って時間を空けて再度お昼の定食を食べに行くと、同様なご飯でした。その後しばらくして、『蔵一山』は閉店。	
	忍城おもてなし甲冑隊 ameba			<a href="https://ameblo.jp/oshijo-omotenashi/entry-">https://ameblo.jp/oshijo-omotenashi/entry-</a> <a href="http://profile.ameba.jp/hasugura1/">http://profile.ameba.jp/hasugura1/</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
②	小澤家の土蔵	○		江戸米蔵 築200年(1817頃)の土蔵2階建て米蔵と長屋門、作業場。	個人宅
				築200年(1817頃)の土蔵2階建て米蔵と長屋門、作業場。小澤家の敷地の入り口には立派な長屋門がある。この門は、昔、佐間からコロを使って運んできたそうです。当時は藁葺屋根でしたが、今は鉄板に変わっています、門の東側には作業場があり、足袋を束ねる縄などを編んでいたそうです。また西側には8畳2間の部屋がある。この部屋には今はほとんど見かけない冠婚葬祭用の漆器を収めた桐の箱、葛籠、長持ち、糸くり機などの生活用品が保管されている。	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
③	横田家の土蔵	○		江戸米蔵 天保5年の土蔵と四脚門が一体となった落ち着きある 佇まい(米蔵)。	個人宅
				天保5年(1834)の土蔵2階建て。横田家の門は、切妻屋根をのせた 格式ある四脚門で、東日本大震災でも被害はなかったそうです。土蔵と 四脚門が一体となったしっかりと落ち着きのある佇まいを醸し出していま す。一方築約100年の土蔵2階建て。屋根は切妻、塗籠形式。現在 は物置として使用している。最後に、築年数不明の、土蔵2階建て。 敷地の裏側には明治5年ごろ越屋根付の「しの屋」と呼ばれ、かつては 二階は蚕室、1階は作業場でした。	
④	大澤久右衛門家住宅・土蔵		●	江戸住宅 江戸後期の住宅と土蔵。弘化3年の大火の延焼を食 い止めた。以来半蔵づくりが行田の特徴。	個人宅
				江戸時代の行田町は幾度かの大火に見舞われましたが、その中でも弘 化3年(1846)の大火は記録的なものでした。この大火の火を止めたのが 「大澤久右衛門」家の蔵造りの建物です。江戸時代の行田町最大の豪 商であった藍染の綿布問屋。江戸後期建設と思われる住宅と土蔵。そ してこれを契機防火に有効な蔵造りの建物が多たてられるようになりま した。住宅部分については風が吹き付ける側だけを塗り壁としています。こ うした「半蔵づくり」の建物が行田の蔵づくりの大きな特徴です。	
	行田市観光ガイド			<a href="http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html">http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html</a>	
⑤	今津印刷所店蔵・主 屋・土蔵	●		江戸店舗 元禄年間(1688~1703)創業。江戸後~末最古の 店蔵。由緒ある老舗印刷所。	今津印刷所
				江戸時代の元禄年間(1688~1703)創業と伝えられ、忍藩の藩札の 印刷にも携わっていた由緒ある老舗印刷所です。明治以降は足袋の商 標ラベルの印刷なども手がけていました。現在住宅として使われている店 蔵は江戸時代後期~末期の建物と思われます。現存する行田市内で 最古級の「店蔵」です。店舗部分から縦一列に部屋が並び、店舗2階 には広い窓が開けられています。こうした造りは行田の店蔵の特徴であ るようです。店蔵の中には県内最初と言われる明治15年ドイツ製の活版 印刷機が置かれ、この印刷機ともども「行田印刷所」として田山花袋の 小説「田舎教師」に登場します。また、その当主であった今津徳之助氏 は、郵便局、電話、電灯、馬車鉄道など行田の近代化事業に中心的 な役割を果たし「行田の渋沢栄一」と言われています。	
	今津印刷所 行田市観光ブログ			<a href="http://www.imazu-p.co.jp/">http://www.imazu-p.co.jp/</a> <a href="https://twitter.com/hashtag/%E4%BB%8A%E6%B4%A5%E">https://twitter.com/hashtag/%E4%BB%8A%E6%B4%A5%E</a>	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
6	森家土蔵・古蛙庵	●		江戸住宅 嘉永3年と明治45年の土蔵造りの足袋蔵。一棟は既存の土蔵を明治時代に足袋蔵に転用。	古蛙庵
				嘉永3年(1850)と明治45年(1912)棟上の2棟の土蔵造りの足袋蔵。前者は既存の土蔵を明治時代に足袋蔵に転用したもので、現在は私的な民芸館「古蛙庵」として活用されています。	
	行田市観光ガイド			<a href="http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html">http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
7	高沢家住宅	●		江戸民家 幕末を中心とした豪農住宅の様相が伺える歴史的価値の高い建物群。「国登録有形文化財」	染色と陶芸ギャラリー 兼住宅、レストラン
				高沢家は菩提寺に寛文6年(1666)に没した高澤三右衛門の名が見られることから、江戸時代初期より当地に住居していたと考えられています。江戸時代後期の建立と思われる主屋は当時の豪農の様相を知る上で重要な建物です。他に敷地内には安政6年、(1859)建立の長屋門、江戸時代後期と思われる土蔵、明治3年(1870)頃と思われる土蔵、明治30年(1897)頃増築された離れなどが所在しています。現存するこれらは、幕末を中心とした豪農住宅の様相が伺える歴史的価値の高い建物群であると思われます。現在は『染色と陶芸の工房ギャラリー』兼住宅、『カフェギャラリー高澤記念館』となっています。《江戸時代初期よりの住居「国登録有形文化財」》	
	カフェギャラリー高澤記念館 行田市教育委員会			<a href="https://takazawakan.jimdo.com/">https://takazawakan.jimdo.com/</a> <a href="https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/">https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
8	川端酒造	●		江戸酒蔵 安政元年(1854)創業の清酒「升川」、「辛亥剣」の醸造元として知られる伝統のある造り酒屋。	川端酒造
				初代川端七右衛門が行田のこの地で酒造りをはじめたのは安政七年(1860)。以来150年に渡り真摯な酒造りが子孫へと受け継がれたのが、この伝統のある造り酒屋『川端酒造』です。母屋、そして酒造場のほとんどが檜と杉で出来た江戸時代からの建造物であり、酒造場に一歩足を踏み入ると、すがすがしい清酒の芳香に体がつつまれます。そして、利根川と荒川の二つの水系の軟水に、山田錦をはじめとする酒造好適米を用いて伝統の技と几帳面な品質管理から醸し出される清酒「枺川」は、爽やかな飲み心地の清酒です。	
	川端酒造のご案内 川端酒造			<a href="http://www.sainojizake.com/kawabata.html">http://www.sainojizake.com/kawabata.html</a> <a href="http://www.kawabatashuzou.co.jp/">http://www.kawabatashuzou.co.jp/</a>	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
9	蒲焼『満る岡』	●		明治料亭 明治8年創業の老舗、川魚料理店。平成17年度(2001)第一回浮き城のまち景観賞を受賞	川魚料理店『満る岡』
				明治8年創業の老舗、川魚料理店。平成17年度(2001)第一回浮き城のまち景観賞を受賞。持田駅の近辺に田山花袋の『田舎教師』に登場した、鰻料理“満る岡(まるおか)”がある。明治時代の行田町の風物を描写した文学作品です。南北に流れていた川は道路になり、柳の湯の名付け親であった川辺の大きな柳の木も、対岸の忍警察の庭に並んだ桜の木も今はない。作中の“柳の湯”という銭湯も、綺麗な女中がいる料亭“魚七”も今はない。柳の枝が川面にゆらゆらし、五米余の川が流れる桜の花びらで真っ白になる光景が懐かしい。	
	うなぎ上りブログ 川魚料理店『満る岡』			<a href="http://moumoutwins.blog59.fc2.com/blog-entry-">http://moumoutwins.blog59.fc2.com/blog-entry-</a> <a href="http://maruoka.hanagasumi.net/menu.html">http://maruoka.hanagasumi.net/menu.html</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
10	十万石ふくさや行田本店 店舗	●		明治店舗 明治16年建設の行田を代表する店蔵。江戸様式の蔵が特徴(国登録有形文化財)。	(株)十万石ふくさや
				この店舗は元:呉服商山田清兵衛商店の店舗として、明治16年(1883)に棟上げされた店蔵です。山田清兵衛商店は江戸時代後期の文政6年(1823)にはすでにこの地で呉服商を営んでおり、この店蔵を建設したのは11代:山田清兵衛(伊三郎)でした。建物は完全な土蔵づくり2階建てで、行田では珍しい東京(江戸)の面影が見られる重厚な店蔵です。今の原型は昭和53年に改装されたものです。	
	(株)十万石ふくさや 文化遺産オンライン			<a href="http://www.jumangoku.co.jp/">http://www.jumangoku.co.jp/</a> <a href="http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/197439">http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/197439</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
11	橋本足袋工場		○	明治工場 明治19年の足袋工場。橋本喜助の行田最古の足袋工場。	-
				明治19年(1886)の足袋工場。橋本喜助は明治19年(1886)に酒蔵を買収し、内部を改造して原料の整理から製造、製品検査、荷造りまでできる工場とした。行田で最古の足袋製造工場を創設。	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑫	足袋蔵まちづくりミュージアム(栗代蔵)	●		明治足袋蔵 日露戦争後の足袋工場建設ブームに明治39年(1906)建てられた最初の足袋蔵。	足袋蔵まちづくりミュージアム
				栗原代八商店が明治39年(1906)日露戦争後の不景気で、仕事が欲しがっていた職人に造らせたと伝えられている足袋蔵です。この時代は軍用足袋を大量受注したことを契機に、足袋工場建設ブームが起きました。それと共に足袋を保管しておく足袋蔵も多く建てられるようになりました。この足袋蔵を建設した栗原代八商店は文化5年(1808)創業の老舗足袋商店で、江戸時代は「松沢屋」と呼ばれていました。「小町足袋」「旗印足袋」の商標で手広く商売を営み、すぐ近くに工場があり、敷地内にも数棟の足袋蔵が立ち並んでいました。《現:足袋蔵まちづくりミュージアム》	
	埼玉モダンたてもの散歩 ぎょうだ足袋蔵ネットワーク			<a href="http://tatemono.art-saitama.jp/archives/1508">http://tatemono.art-saitama.jp/archives/1508</a> <a href="http://www.tabigura.net/machidukuri.html">http://www.tabigura.net/machidukuri.html</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑬	草生蔵		●	明治足袋蔵 明治43年のコンクリートの水平ラインが印象的な2階建ての足袋蔵。市内で最も古い石造りの蔵	個人宅
				コンクリートの水平ラインが印象的な2階建ての石蔵は「金樂足袋」等の商標で知られた「金樂足袋株式会社(商標:金樂足袋、他)」が、明治43年に住宅とともに建設した足袋蔵だと伝えられています。市内で最も古い石造りの足袋蔵だと思われそうですが、昭和初期に建て替えられている可能性も指摘されています。現在は所有者が草生家になり、倉庫として使われています。	
	ときいもちやんのつぶやき			<a href="https://twitter.com/hashtag/%E8%8D%89%E7%94%9F%E8">https://twitter.com/hashtag/%E8%8D%89%E7%94%9F%E8</a> <a href="https://ameblo.jp/tokiimochan2/entry-">https://ameblo.jp/tokiimochan2/entry-</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑭	保泉蔵		●	明治店舗 明治から昭和初期と時代変遷の足袋蔵。店蔵、主屋、足袋蔵が一列に並ぶ蔵並び短冊型が特徴。	個人商店
				保泉商店は足袋原料商として明治35年に創業し、明治42年に明治後半に建てられたと思われる土蔵(前蔵)を買い取ってこの場所に移転しました。その後足袋産業の発展と共に商売を拡大し、大正5年には大型の土蔵を建設しました。さらに第一世界大戦後の不況を乗り切って行田一の足袋原料商に飛躍。昭和元年には大谷石の店蔵(L字形の店舗併用住宅)を建設しています。その後も昭和7年に一番奥の石蔵が、次いで東側にモルタル蔵(新蔵)が建設され、西側の蔵の間が塗り壁で繋がれて、この蔵並びが完成しました。一代で築いた創業者の保泉近蔵氏は託児所(現在の若葉保育園)を建設するなどの社会福祉活動にも尽くしています。	
	行田市観光ガイド			<a href="http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html">http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html</a>	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
16	Caf・閑居・足袋蔵ギャラリー門・足袋蔵 パン工房・クチキ建築設計事務所・土蔵	●		大正足袋蔵 大正5年(1916)の足袋蔵(3階建土蔵)。昭和5年建設の奥貴賢一氏の高級住宅も含。	Caf・閑居・足袋蔵ギャラリー門・足袋蔵 パン工房・クチキ建築設計事務所
			<p>『足袋蔵ギャラリー“門”』と『クチキ建築設計事務所』は「ほうらい足袋」「栄冠足袋」の商標で知られた奥貴忠吉商店の足袋蔵として大正5年建てられました。特に後者は3階建ての足袋蔵で、元は黒壁でした。Caf『閑居』は奥貴家の住宅として、昭和5年に建設された高級木造住宅で、奥貴賢一氏(初代行田市長で名誉市民)が暮らしていました。閑静な庭園と一体となって落ち着いた佇まいを醸し出しています。その他明治43年建設の足袋蔵も残されています。これらは現在は整備・再生されたものです。特に『門』は絵画展、コンサート等の催しが開かれアート発信の重要な場となっています。</p>		
<p>行田商工会議所 NAVAまとめ</p>				<p><a href="http://www.gyoda-cci.or.jp/tabigura/kankyo.htm">http://www.gyoda-cci.or.jp/tabigura/kankyo.htm</a> <a href="https://matome.naver.jp/odai/2138313508508091501/">https://matome.naver.jp/odai/2138313508508091501/</a></p>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
17	イサミコーポレーションスクール工場・事務所・土蔵・モルタル蔵・木造倉庫	●		大正工場 明治40年の行田最古の大規模足袋工場。大正～昭和の木造洋風住宅ノギリ屋根、蔵。	(株)イサミコーポレーション
			<p>この工場は「鈴木勝次郎商店」が開設した既存する行田で最も古い大規模足袋工場(現在は被服工場)です。中央のノギリ屋根の木造洋風工場は大正6年、入口右側の旧事務所は大正7年にそれぞれ建設されています。そして、昭和13年にモルタル造りの足袋蔵が棟上げされています。その他戦前の建物と思われる旧講堂、土蔵、旧寄宿舎、食堂、ポンプ小屋などがあり、戦前の大規模足袋工場の様子を残す貴重な建物群です。開設当時は、おそらく電動ミシンを一挙に多数導入した、最も近代的な量産工場であったと思われます。</p>		
<p>ロケTV (株)イサミコーポレーション</p>				<p><a href="http://locatv.com/rikuou-location04/">http://locatv.com/rikuou-location04/</a> <a href="http://www.isamicorp.co.jp/">http://www.isamicorp.co.jp/</a></p>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
18	時田家住宅・時田蔵		●	大正足袋蔵 大正の足袋蔵(袖蔵形式の土蔵)。周辺の足袋蔵も含めて行田の足袋産業全盛期の貴重な建物群。	個人商店
			<p>時田蔵は明治28年に創業した「時田啓左衛門商店(商標:神武足袋、かたる足袋、桜都足袋、融和足袋)」が大正時代頃に建設したと伝えられる行田では表通りに面した“袖蔵形式の土蔵”です。この奥にも明治36年に完成の足袋蔵が並んで立っています。ここ周辺の足袋蔵も含めて、行田の足袋産業全盛期の面影を残す貴重な建物群です。時田啓左衛門は一代で財産を築き上げるとともに、忍町信用組合を創立するなど、地域の発展にも尽くした人物です。</p>		
<p>行田商工会議所 ときいもちゃんのつぶやき</p>				<p><a href="http://www.gyoda-cci.or.jp/tabigura/tokita.htm">http://www.gyoda-cci.or.jp/tabigura/tokita.htm</a> <a href="https://ameblo.jp/tokiimochan/entry-">https://ameblo.jp/tokiimochan/entry-</a></p>	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
19	田代蔵		●	大正店舗 大正時の住居と足袋蔵。昭和初期の店舗・主屋と土蔵(足袋蔵)の5棟が一行に並んでいる。	個人商店
				元田代鐘助商店の大正時代建設の住居と土蔵（足袋蔵）、昭和2年（1927）建設の店舗・主屋と土蔵(足袋蔵)の5棟が、短冊形の敷地に一行に並んでいる。	
20	旧忍町信用組合店舗		●	大正店舗 大正11年の木造洋風銀行店舗。ルネッサンス風の木造二階建。	廃屋
				ルネッサンス風の木造二階建てで屋根と壁面の配色がなかなか潇洒だ。屋根にはドーマー窓が設けられている。元来は、足袋商店主たちが出資して創業した忍町信用組合(地元金融機関)の店舗で、表通りに面していない所あるのが珍しい。足袋産業の発展を支えてきました。かつては新町自治会の集会所として使われていたが、現在は廃屋。しかしながら、間もなく引っ越しが始まるそう。大正ロマン満々、いつまでも残していただきたい行田の資産。	
	行田市の洋館 行田市教育委員会			<a href="http://www.geocities.jp/fukadasoft/bangai5/youkan/ind">http://www.geocities.jp/fukadasoft/bangai5/youkan/ind</a> <a href="http://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/kyuoshi/kojiannai">http://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/kyuoshi/kojiannai</a>	
20	長井写真館		●	大正店舗 大正11年の木造洋館「フチイ写真館」大正時代期の店舗兼住宅。大正の洋風建築。	長井写真館
				大正11年(1922)にフチイ写真館の店舗兼住宅として建てられた、現存する木造の洋館です。大正時代の戦前の写真館の特徴を良く残す建物です。当時の行田は織布業、染色業、ネル張業、底張業、印刷業、箱屋、糸商、ミシン屋、増地業など足袋関連産業が派生してまち全体が「足袋づくり一色」に染まっていった時代です。モダンで洒落たデザインの大正時代の雰囲気良く残しています。現存する木造の洋館であり戦前の写真館の特徴を良く残す建物として貴重な近代化遺産。まさに『大正ロマンを感じる遺産』そのものです。その後、フチイ写真館は長井写真館へと変わり現在も写真館として使われています。	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
20	大澤家住宅旧文庫蔵		●	大正倉庫 大正15年の住宅・土蔵(行田唯一のモダンレンガ蔵)。 関東大震災後の耐火性を考えた建物。	個人商店
				大澤家は江戸時代には穀質商「松坂屋」を営み、当主が代々専蔵の名を襲名していたことから「松専」として親しまれてきました。明治17年に6代専蔵(吉蔵)が足袋商(商標「花形足袋」)に転業して成功を収め、その後を継いだ7代専蔵(正太郎)氏が、大正12年(1923)関東大震災で土蔵が破損したのを契機に、この文庫蔵の建設を決意されたといわれています。自ら、東京の復興博覧会でレンガの耐火性をみて、深谷の「日本煉瓦」に相談に行くなど大正15年(1926)にモダンなレンガ蔵を完成させています。昭和3年には隣に店舗兼住宅を完成させるなどの7代専蔵氏の普請道楽振りが伺える見事な建物です。	
	行田市教育委員会 文化遺産オンライン			<a href="https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/">https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/</a> <a href="http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/198179/1">http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/198179/1</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
20	奥貫蔵(あんこ)		●	昭和足袋蔵 大正～昭和初期の戦争景気で財を成し足袋倉庫として建設。足袋産業の栄華を伝える足袋蔵。	蕎麦店
				「奥貫蔵」は奥貫忠吉商店(明治20年創業商標:ほうらい足袋)が大正時代～昭和初期頃に建設した足袋蔵です。奥貫忠吉の長男賢一郎は明治20年東京日本橋の輸入織物問屋に奉公に行き努力で出世し、やがて貴省し足袋商人に転身した人物です。わずか数年で賢一郎氏は北海道から三陸海岸の広い地域で得意先を広めることに成功しました。自らの顧客の開拓により「問屋を通さずに足袋を直販する方式」です。さらに日露戦争、第一次世界大戦による戦争景気で財を成し、足袋工場を建設するとともに、その商品倉庫としてこの足袋蔵を建設したものです。足袋産業の栄華を伝える足袋蔵”です。	
	さいたま北部の散歩道 Antip@sto BLOG			<a href="https://gratefuldays.bean-jam.jp/archives/3908">https://gratefuldays.bean-jam.jp/archives/3908</a> <a href="http://blog.goo.ne.jp/gtomita/e/48dcebb1d4f968a1d81e">http://blog.goo.ne.jp/gtomita/e/48dcebb1d4f968a1d81e</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
1	旧荒井八郎商店事務所 兼住宅・大広間棟・洋館		●	昭和洋館 昭和元年・7年・10年の住宅兼事務所。かつては“足袋御殿”と呼ばれた贅をつくした建物。	和牛懐石『彩々亭』
				かつては足袋御殿と呼ばれた旧新井八郎商店の事務所・兼住宅・大広間棟・洋館。足袋屋の小僧から身をお越し、力と押しの世渡りで一代にして財を成し、参議院議員まで登りつめた荒井八郎が昭和元年と7年さらに10年と3回に渡って建設した住宅兼事務所を、約10年前に改装した懐石料理亭です。木造二階建てで屋根には緑色の光沢のある瓦、2階はモルタルで化粧、1階にはスクラッチ・タイルが貼られている。贅をつくした建物の中で、美しい庭を眺めながらの懐石は絶品です。	
	行田市教育委員会 和牛懐石『彩々亭』			<a href="https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/">https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/</a> <a href="http://www.saisaitei.jp/">http://www.saisaitei.jp/</a>	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
②	行田窯	●		昭和倉庫 昭和初期に建設された現存する数少ない木造の足袋蔵。新井八郎商店の足袋原料倉庫。	陶芸工房行田窯 「風工房」
		木造2階建のこの建物は、元は「穂国足袋」の商標で知られた新井八郎商店の足袋原料倉庫で、昭和初期に建設されたものと思われます。同商店の手を離れた後にこの場所に曳家され、東半分が取り壊されましたが、現存する数少ない木造の足袋蔵として貴重な存在です。現在は「行田窯」となっています。			
	ともちやんのつぶやき ゆるーい日記	<a href="https://ameblo.jp/tokiimochan/entry-">https://ameblo.jp/tokiimochan/entry-</a> <a href="http://keny72.blog.fc2.com/blog-entry-639.html">http://keny72.blog.fc2.com/blog-entry-639.html</a>			
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
③	イサミコーポレーション足袋工場	●		昭和工場 昭和初期のノギリ屋根の木造洋風工場。鈴木勝次郎商店の大規模足袋工場。	イサミコーポレーション
		現存する行田最大級のノギリ屋根の木造洋風工場で昭和初期の建設と伝えられています。昭和3年足袋商店の大規模な工場が多数進出してきました。そうした住居地から完全に独立した大規模足袋工場のさきがけとなった工場です。明治40年に創業した鈴木勝次郎商店は組み立て工場であったこの工場を買い取って生産を拡大、歌舞伎の“勇み肌”から名をとった「イサミ足袋」の商標で行田有数の足袋メーカーへと成長した企業です。『個人商店から企業へと発展して行った昭和初期の足袋産産業を象徴する近代化遺産です。』			
	ときいもちやんのつぶやき (株)イサミコーポレーション	<a href="https://twitter.com/hashtag/%E3%82%A4%E3%82%B5%E3">https://twitter.com/hashtag/%E3%82%A4%E3%82%B5%E3</a> <a href="http://www.isamicorp.co.jp/">http://www.isamicorp.co.jp/</a>			
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
④	鯨井家倉庫		●	昭和倉庫 昭和3年の足袋原料倉庫。現存する市内唯一の戦前の鉄骨コンクリート造の足袋蔵。	個人宅
		昭和3年（1928）に建設された鉄筋コンクリート造の元足袋原料倉庫（足袋蔵）。現存する行田市唯一の戦前の鉄筋コンクリート造の足袋蔵です。			
	行田市観光ガイド	<a href="http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html">http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html</a>			

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑤	時田足袋蔵		●	昭和足袋蔵 昭和4年の足袋専用倉庫。明治28年創業の時田啓衛門商店の倉庫	個人商店
		この間口8間、奥行8間の土蔵は、「かるた足袋」「桜都足袋」などの商標で知られた時田啓衛門商店が昭和4年に棟上げた足袋専用倉庫です。時田啓衛門は、明治28年(1895)に創業し、山形・宮城・山梨県を中心に販路を伸ばして成功を収め、この大型の足袋蔵を建設しました。昭和初期の行田足袋産業全盛期の面影を伝える近代化遺産といえます。			
行田市観光ガイド ときいもちゃんのつぶやき				<a href="http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html">http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html</a> <a href="https://ameblo.jp/tokiimochan/entry-">https://ameblo.jp/tokiimochan/entry-</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑥	旧小川忠次郎商店 店舗及び主屋	●		昭和店舗 大正14年に棟上げし、昭和4年頃に完成した店舗兼住宅。行田最後の店蔵(国登録有形文化財)。	そば打ち教室 「忠次郎蔵」
		足袋原料問屋小川忠次郎商店の店舗兼住宅として昭和4年頃に完成(大正14年に棟上げ)した、行田最後に建てられたと思われる店蔵です。小川忠次郎は明治40年に熊谷で魚商を始め、大正9年には行田で足袋原料問屋を開業しています。忠次郎蔵は平成16年に『NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク』の事務所、及びそば店『忠次郎蔵』として活動しています。			
行田市観光ブログ 文化遺産オンライン				<a href="http://www.gyoda-">http://www.gyoda-</a> <a href="http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/139978">http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/139978</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑦	バン屋『翠堂』	●		昭和店舗 昭和4年の山田三之助の二階建て店舗(山田荒物店)	天然酵母パン屋
		昭和4年(1929)の町屋。この木造2階建ての商家は、日用品、雑貨、たばこなどの販売をしていた山田三之助氏の店舗(山田荒物店)として昭和4年に建設されましたが、この店は平成7年頃に閉店されています。平成12年喫茶「味蔵」平成20年「翠玉堂」が開業しています。翠玉堂は歴史ある建物を生かして個性的な商売を展開しながら、若手芸術家のアートイベント、展覧会にどに利用しています。			

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
8	小川玄右衛門蔵	●		昭和店舗 昭和2年の戦前の数少ない2階建の石蔵。個性的な倉庫。	カネマル商店
				行田では大正時代以降、土蔵の屋根に洋小屋組みが採用し足袋産業の増加に伴って足袋蔵の大型化を果たし、石蔵やレンガ蔵が建てられるなど蔵にも洋風建築の影響が現れます。小川源右衛門蔵はそうした洋風小屋組(キングポストトラス)の蔵の代表例といえる大型の蔵です。小川源右衛門商店(現:カネマル商店)は近江商人で日本酒の小売店として明治17年に創業しています。その後、食料品、味噌、醤油なども取扱い幾多の特約店となって商売を拡大して行きました。そして昭和7年に大谷石積造2階建ての商品倉庫を建設しています。現在も向かい側のお店の商品倉庫として商品倉庫として使用されています。《昭和初期の酒屋さんの石蔵》	
9	武蔵野銀行行田支店店舗	●		昭和店舗 昭和9年(1934)の足袋のまちを支えた銀行。彫の深い鉄筋コンクリートとスクラッチタイル。	武蔵野銀行行田支店店舗
				この建物は昭和9年、忍貯金銀行の店舗として建てられたものです。彫の深い近代復興式の鉄筋コンクリート造り、外壁は当時流行のスクラッチタイル貼りの本格的な銀行建築です。戦時中の銀行統合で昭和19年に行田足袋製造販売会社へ売却されました。昭和21年には昭和天皇が巡幸の際に立ち寄り、2階の貴賓室で食事をとっています。昭和25年から「足袋会館」となり、そして昭和44年に「武蔵野銀行行田支店」となって現在に至っています。幾多の変遷をへて足袋のまちを支え続けた行田を代表する近代化遺産です。	
	行田市教育委員会 文化遺産オンライン			<a href="https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/">https://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/</a> <a href="http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/118027">http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/118027</a>	
10	牧野本店・主蔵・土蔵・足袋とくらしの博物館	●		明治店舗 明治32年(1989)～大正期の足袋全盛期の足袋商店の様相を現す建物群。	足袋とくらしの博物館
				明治32年(1989)～大正期の足袋蔵工場・大正11年(木造洋風工場)・大正13年頃(店蔵、土蔵他) 全盛期の足袋商店の様相を現す建物群。行田随一の豪勢な店蔵、木造洋風の工場、土蔵3棟が残る牧野本店。足袋全盛期の典型的な行田の“中規模足袋商店”の様子を伝える貴重な建物群です。明治7年に武士から足袋商人に転身した牧野鉄弥太氏は明治32年以降3棟の「足袋蔵」を建設するなど商売を拡大して行きました。《現:「足袋とくらしの博物館」》	
	ぎょうだ足袋蔵ネットワーク			<a href="http://www.tabigura.net/tabihaku.html">http://www.tabigura.net/tabihaku.html</a>	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑪	藍染体験工房 「牧禎舎」	●		昭和住宅 昭和15年の創業時に建設した工場と事務所兼住宅。 戦前の日本屋敷の佇まいを継承。	藍染体験工房
			<p>「牧禎舎」は足袋・被服商牧禎商店(ヘキの商標)が昭和15年の創業時に建設したノギリ屋根工場と事務所兼住宅です。壁は漆喰仕上げ-土壁貫構造-下見板張りで構成されており落ち着いた戦前の日本屋敷の佇まいを良く伝えております。建設中は日中戦争で創業者の牧野貞蔵氏は出兵、復員後、被服を中心にして牧禎商店を軌道にのせましたが、昭和50年代半に商売をたたんでいます。平成22年「NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」が藍染体験工房として再活用を提案。遺族の方々が「牧禎舎」と命名しました。気楽に本藍染が体験できる施設として好評で新たな観光・生涯学習スポットとして注目されています。</p>		
	牧亭舎(まきていしゃ)藍染体験工房 ぎょうだ足袋蔵ネットワーク			<a href="http://makitei.blog90.fc2.com/blog-date-201511.html">http://makitei.blog90.fc2.com/blog-date-201511.html</a> <a href="http://www.tabigura.net/makitei.html">http://www.tabigura.net/makitei.html</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑫	長光の石蔵	●		昭和20年(1945)のお寺の石蔵。石蔵は農協が米蔵倉庫として、長光寺の土地を借り受けて建設されました。	お寺とイベント会場
			<p>昭和20年(1945)頃の建設した石蔵(大谷石)。文禄2年(1593)長光寺は須加城跡地付近である現在の地に開創されました。この石蔵は農協が米蔵倉庫として、長光寺の土地を借り受けて建設しました。平成8年(1945)農協からの変換申し出を受けた長光寺は、蔵を残したまま土地返還を受け、その後改修工事をしている。どっしりとした存在感のある蔵で、改修後は「石乃蔵 空華」として、法事や、俳句会、コンサート、書道等、様々イベント会場になっています。</p>		
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑬	松坂屋蔵	●		昭和24~25年の2階建てモルタル蔵。戦後まもなく、熊谷の建材を再利用し、均整の取れた倉庫蔵。	松坂屋建設株式会社
			<p>戦後まもなく創業した松坂屋建材株式会社が、昭和24~25年頃に建設した倉庫です。当時熊谷にあった軍事施設のボイラー室を解体し、その建材を再利用して建てられたそうです。頑丈な造りの均整のとれた2階建てのモルタル蔵で、現在も同社の倉庫として使用されています。</p>		

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑭	孝子蔵		●	昭和足袋蔵 昭和26年の店蔵兼住宅、工場、倉庫が一系列に並ぶ足袋蔵。最後の輝きを伝える足袋の近代化遺産。	個人宅
			<p>大木末吉商店が昭和26年に敷地の一番奥に棟上げした足袋蔵です。大木商店は「孝子足袋」で有名です。昭和25年に経済統制が解除されると、行田の足袋産業は息を吹き返し、再び足袋蔵が建てられるようになりました。その当時は材木が入手困難なこともあって、こうした石蔵が多く建てられました。支柱を持たずに大谷石を積み上げて壁を造り、その上に屋根を乗せているのが特徴です。2階の窓も大谷石の引き戸になっています。大木商店は間口が狭く奥が長い短冊形の敷地に、店蔵兼住宅、足袋工場、足袋倉庫が一系列に並んでいます。これはかつての、城下町の商人町(行田町)に位置する足袋商店の典型的な建物配置です。</p> <p>昭和26年に大谷石の敷地の一番奥に棟上げした足袋蔵です。大木商店は「孝子足袋」で有名です。昭和25年に経済統制が解除されると、行田の足袋産業は息を吹き返し、再び足袋蔵が建てられるようになりました。その当時は材木が入手困難なこともあって、こうした石蔵が多く建てられました。支柱を持たずに大谷石を積み上げて壁を造り、その上に屋根を乗せているのが特徴です。2階の窓も大谷石の引き戸になっています。大木商店は間口が狭く奥が長い短冊形の敷地に、店蔵兼住宅、足袋工場、足袋倉庫が一系列に並んでいます。これはかつての、城下町の商人町(行田町)に位置する足袋商店の典型的な建物配置です。</p>		
うみうしの憂鬱 ときいもちやんのつぶやき				<a href="http://blog.goo.ne.jp/sennoma/e/479f8d8a1901c610ca">http://blog.goo.ne.jp/sennoma/e/479f8d8a1901c610ca</a> <a href="https://twitter.com/tokiimochan/status/867632258391">https://twitter.com/tokiimochan/status/867632258391</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑮	舞原蔵		●	昭和石蔵 昭和27年(1952)建設。舞原被服工業。戦後の行田を代表する均整のとれた石蔵。	舞原被服工業
			<p>昭和27年(1952)建設。戦後の行田を代表する均整のとれた石蔵。大正時代に足袋産業から派生した被服産業も台頭しこれらの倉庫を建設しています。戦後の木材不足から、この時期の足袋蔵は部分が大谷石造の蔵となっています。</p>		
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
⑯	栗原家モルタル蔵		●	昭和足袋蔵 昭和28年に農家の米蔵を移築したモルタル蔵。数少ない戦後の移築転用された足袋蔵。	個人宅
			<p>戦後、昭和25年に経済統制が解除されると、足袋産業は再び息を吹き返し、統合していた足袋商店は再び分離独立して行きました。大正時代に足袋産業から派生した被服産業も台頭しています。昭和28年(1953)に館林市の農家の米蔵を移築した元:福力足袋有限会社のモルタル造の足袋蔵。数少ない戦後の移築転用された足袋蔵である。</p>		
行田市観光ガイド ときいもちやんのつぶやき				<a href="http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html">http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html</a> <a href="https://twitter.com/hashtag/%E6%A0%97%E5%8E%9F%E5%AE%">https://twitter.com/hashtag/%E6%A0%97%E5%8E%9F%E5%AE%</a>	

番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
	小沼蔵		●	昭和足袋蔵 昭和29年に建設した石蔵。頑固な基礎工事が特徴で、戦後の振興、最末期の均整のとれた足袋蔵。	個人宅
17				株式会社豊年足袋会社(商標:豊年足袋、他)が、昭和29年(1954)に建設した足袋蔵です。頑固な基礎工事を行っているのが特徴で、戦後の振興足袋商店の台頭を象徴する均整のとれた最末期の足袋蔵です。	
	行田市観光ガイド ときもちやんのつぶやき			<a href="http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html">http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/tabigura.html</a> <a href="https://twitter.com/search?q=%23%E5%B0%8F%E6%B2%">https://twitter.com/search?q=%23%E5%B0%8F%E6%B2%</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
	秋山蔵		●	昭和蔵 小さくてかわいらしい蔵。かねまつ足袋	-
21				2012年から参加いただいている秋山蔵。小さくてかわいらしい蔵です。 商標:かねまつ足袋	
	ぎょうだ足袋蔵ネットワークBLOG			<a href="http://blog.livedoor.jp/tabigura/archives/50816307.html">http://blog.livedoor.jp/tabigura/archives/50816307.html</a>	
番号	文化財の名前	活躍	無言	特記事項	今の活動(お店、会社名)
	羽鳥家の石蔵	○		昭和土蔵 築約50年の石蔵2階建て。	民家
19				築約50年の2階建て石蔵(大谷石)。屋根は切妻造り、仕上げはチェーン加工。大矢石は大正11年(1922)にアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが旧帝国ホテルの建築に大量に使用してから、日本中に知られるようになりました。月日が経つにつれ硬さが増し、耐火性に優れています。	